

藤原夫人の歌一首

一四六五番

ほととぎす いたくな鳴きそ 汝が声を 五月の  
玉に あへ貫くまでに

志貴皇子の御歌一首

一四六六番

神奈備の 磐瀬の社の ほととぎす 毛無の岡に  
いつか来鳴かむ

弓削皇子の御歌一首

一四六七番

ほととぎす なかる国にも 行きてしか その鳴  
く声を 聞けば苦しも